

今回は 夏休みに行われた関ジモト大学 の報告（その11）です。

## ◇ オンラインセミナー「関ジモト大学2022 online」

今年度は、昨年度に引き続きオンラインセミナーを実施しました。関市で活躍する「せき・まちづくりNPOぶうめらん」が主催する「関ジモト大学 online」の場をお借りして、関市内の19企業と各企業のSDGsに関わる取り組みについての話を聞き、生徒が意見交換を行いました。

## ◇ 企業紹介

### 【靴磨き専門店 LEON】

岐阜県初の靴磨き専門店 LEON。靴磨きの仕事だけでなく、自身の発達障がいについても、様々なかたちで発信しています。

【Instagram】 [@leon1122it](#)



### 【福田行政書士事務所】

20代の行政書士が創業したLGBTQフレンドリーな行政書士事務所です。この地域ではかなり珍しいかもしれません。メインの業務としては、LGBTQにまつわるご相談や啓蒙活動、同性カップルのパートナーシップ公正証書の作成などを行います。その他、各種許認可申請代行等も。誰にとっても身近だと思ってもらえるよう窓口を目指しています。



【Twitter】 [@fukudagss](#)

関連する SDGsの 目標	 <p>4 質の高い教育を みんなに</p>	 <p>8 働きがいも 経済成長も</p>	 <p>10 人や国の不平等 をなくそう</p>
---------------------	---	--	---

## ◇ 関ジモト大学を受けて 生徒の感想

今回、発達障がいとLGBTの方の話を聞いて、どちらも特別なものではなくて、例えば数学が苦手だとか球技が苦手だとかと同じで、その人の特性や個性だと思った。だから、発達障がいやLGBTのように理解されにくかったり、少数派だったりするからといって、差別や誹謗中傷されたりするのはおかしいことだと思った。また、発達障がいやLGBTの人が暮らしやすいような社会にするのは、みんながそういう人のことを特別なものじゃないと理解することが大切だと思った。

講演を聞いて、靴磨きの LEON さんのお話からは、自分の個性を生かすことの大切さを学びました。LEON さんは集中力に長けているという特性を生かして、靴磨きの仕事をしていると伺ったので、自分の特性を生かして輝ける場所があるんだなと思いました。発達障がいがあると、できないことを気にしてしまうように思うけれど、それよりも自分にできることを優先して突き詰めることの大切さを学びました。そして、いろいろな経験をして失敗することが大切だと聞いて、失敗も経験だからあきらめないで最後までやり通すことを頑張りたいです。

行政書士の福田さんのお話からは、多様性を当たり前の認識として捉えることの大切さを学びました。LGBT だから、というようなフィルターを作るのではなく、普通の人として接することを大切にしたいと思いました。福田さんは、同じ境遇の者同士で共感したり、当事者でなくても理解しようとしたりする活動をされていて、とてもすごいなと思ったし、私もそういう意識を持ちたいと思いました。また、ちょっとした些細なことでも、やりたいことはその時にやったほうが良いと聞いたので、自分に投資できる今、努力や行動をしていきたいです。

自分の知らない、様々な職業、生き方に触れ、新しいことを沢山知ることができました。話をしてくださった 2 人とも、自分の個性を生かした職業に就き、自分のやりたいことに真っ直ぐに向き合い、地域の他の人のために活動する姿が素敵だと感じました。また、今回、人との関わり方についても色々話を聞き、発達障がいのある人や、LGBTQ に当該する人も、何か特別である訳ではなく、たくさんの人と関わる中で、個々の良さや出来ることを見つけてあげることや、フィルターをかけて人を見ないことが大切なのだと分かりました。自分も人との関わり方について改めて考えることができました。進路については、今回の話を受け、色々なことを体験し、興味のあることに対しては、直線的に行動ができるようになりたいと思います。

僕がこの講座を聞いて学んだことは 2 つあります。1 つ目は、得意不得意についてです。人は誰しもが短所(苦手な部分)があります。しかし、長所(得意な部分)もあります。短所を直そうとするより、長所を伸ばして自分がやっていて楽しい、やりやすい事をした方が良いということが分かりました。だから、僕も自分の短所を見つめ直すよりも長所を伸ばしていきたいと思いました。

2 つ目は、挑戦することについてです。挑戦すると成功することもあるれば失敗することもあります。しかし、成長するための一番の近道が失敗することによって、失敗を無しにして成長は出来ないということが分かりました。だから、僕も失敗を恐れずたくさん挑戦し、たくさん失敗して大きく成長していきたいと思いました。

靴磨きの LEON さんは、自閉症だそうです。しかし、自閉症かどうかは、ぱっと見では分からず、本当は自閉症なんだけど気づかれずに生活しにくくなってる人もいますそうです。だから僕達は、差別意識を無くしていくなどし、自分の事を言い出さず困ってる人でも生きやすい環境を作っていく必要があると学びました。

REON さんからのお話の中で、自身が自閉症であるが、逆に職人に向いているというものがありません。これについては、まず自分がダイバーシティについての学習とって LGBTQ のことしか調べていなかったためあまり自閉症に関する知識がなかったことが一つの課題であると同時に、マイノリティ＝劣っているという先入観を打ち払うことにつながる考え方なのではないかと思って、こういった考え方を広めていけるようになれば良いなと思いました。

自閉症と発達障がいのある LEON さんは、関市で靴磨きを仕事としています。レオンさんは、自閉症や発達障がいを靴磨きという仕事において利点として考えていて、すごいと思いました。また、平等な世の中にするために、自分と同じ発達障がいのある子どもたちに、その子に合った方法で靴磨きを教えていて、社会に貢献していてすごいと感じました。

LGBTQ の当事者である福田さんは、美濃加茂市で LGBTQ フレンドリーな行政書士を仕事としています。福田さんは、自分がしてきた苦勞を子供たちにさせたくないという思いから、県内で初となる LGBTQ フレンドリーな行政書士として LGBTQ の人をサポートしている行動力がすごいと思いました。

靴磨き、行政書士という仕事は馴染みのないものだったけど、初めて詳しく知ることができて、とても勉強になった。世間的にはマイナスに見られてしまう自分の個性を強みとして捉えていることが、カッコ良いと思った。〇〇だから～だという先入観を強く持ちすぎずに、ひとりひとりが楽しく生活できるような社会が作られると良いと思うし、私も人のことは立場で見るのではなくて、個々のことを見るように、より意識していきたい。

障がいがありながらも他の人と同じように働く姿にすごいと思いました。そして、夢は叶うということ学びました。私も自分の夢をかなえるために日ごろからの努力を忘れず、日々関わる人に感謝をしながら生活しようと思いました。また、行政書士という仕事を初めて知りましたが、困った人を助ける仕事はカッコ良いなと思いました。まだまだ知らない仕事も多いと思うので、これから積極的に調べていきたいです。

関市にパートナーシップ制度があることを、今回初めて知りました。他にも行政書士がどんな仕事をしているか、靴磨きの仕事はどんな内容か、などの話も聞いて、とても貴重な体験をさせていただきました。行政書士のなり方、靴磨きという仕事をするための方法など、普段は聞くことがない話が聞いてよかったです。

私は今回の話を聞いて「人は人」という言葉に強く共感した。自閉症であったり LGBTQ であったりするの、何も差別には関係ないと感じた。そして私も、話していただいた 2 人のように、人と人とのフィルターを取り除き、誰もが笑顔になれるような社会を作りたいと思えた。また、靴磨きを終わるとお客さんにすごく喜ばれることがやりがいであるという LEON さんの話を聞いて、私も自信をもって一生の仕事にできるような職業を見つけたいと感じた。他にも、長所を伸ばすことも必要で、短所ばかりを見てはだめで、自分の特性を発展させることが必要であることなどいろいろな物事を教えてもらって、とてもためになった。